

山崎さんの家 鹿児島・南九州市
●床面積：126.25㎡
●家族構成：夫32歳 妻30歳

土間のような板の間は、
外と内をつなぐ曖昧な空間。
家全体が自然と共生する。



(下2点) 雑木林風の庭を通して、切妻のシンプルな外観が見える。休日には夫が終日、庭仕事を楽しんでいるとのこと。木々が育てば、もっと自然の中に溶け込んでいくのだろう。外壁には杉を使用。「この周囲にある武家屋敷のように、いい感じに朽ちた感じに焼けてくれるかなと楽しみにしているんです」(夫)。ガリバリウム銅板の屋根にはソーラーシステム「そよ風」のパネルが載っている



1階LDKは、南側に向かって大きく開口し、引き戸を壁に引き込んでしまえるので、開放するとまさに、外と内とが一体化する。床材には吉野杉、壁・天井には構造用針葉樹合板を張り、自然塗料を塗布している。「シンケンのモデルハウスと同じプランにしてください」と希望した。ダイニングの床レベルは、玄関と同じで、フルフラットに連続している。リビングとわずかに段差がついていて、ダイニングまでは、板の張られた土間のようなものなのである。「ホントは、土足でここまで歩いてきて、リビングに上がるようになっていたんですが、何だかもうたいていなくて素足になっちゃうんですよ」と夫婦して笑う

間仕切りを開閉することで、融通無碍に空間を変えられ、動線は最も短くなる。

(右)縁側で心地よさそうなお夫婦。「よく友達とか仕事の同僚が飲み会の帰りに寄って、二次会のように和んで帰るんですよ。皆、勝手知ったる我が家みたい」と笑う(下)和室は裏庭に面していて、DK側とは反対に、開口部を小さめにし、日本庭園風の景観を楽しめる。「夏はここで寝ていると涼しいですね」(下右)1階と2階は吹き抜けでつながる一体空間。これだけの大空間だが、ソーラーシステムのおかげで、冬暖かく、夏は涼しく過ごせる温熱環境となっている。「オープンハウスで実感した通りですね」(妻)(下左)2階からDKを見下したところ。2階はとりあえず、フリースペース。パソコンなどを置いて趣味部屋となっている



敷 地を生かすとは、敷地いっばいに建物を建てるのではなく、余白を残し、潤いを持たせること。大木の合間に見え隠れする家。住む者は窓を開いて風を導き、庭の木漏れ日の下で皆が談笑する、そんな町に住みたいものです。シンケン代表の迫さんのメッセージである。「その土地にしっかりと馴染み、居心地のいい居場所をつくる。そして、それは道に並行に建てることを前提としない自由な発想から始まるのです」(迫さん)。

山崎邸も、その基本的な考え方を基にしたプラン。長方形の敷地の中に、建物を斜めに配置した。雑木林に仕立てたアプローチを歩いていくと、斜めに構えた切妻の屋根と、玄関の深く低い軒が視界に。玄関に入ると、その先には庭までも内部に取り込む大開口を持つ、LDKのおおらかな吹き抜け空間が広がる。深い

軒の下は外とも内ともつかない曖昧な場所だ。キッチン周りに立つと、南の菜園から北の和室の奥に広がる裏庭まで見通すことができる。引き戸は使う時のみ閉めればよい。内部は融通無碍な空間なのだ。

「以前住まいの裏に建っていた家がたまたまシンケンの家だったんです。そのころから、ああ、格好いいなあ。って思っていたんです。だから、家を建てようと思って、シンケンの完成見学会に行ったときに、やっぱりいいなあと思ったので、思いました」と絶賛する妻の横で夫も深くうなずく。

共働きの夫婦にとって、以前の借家は壁が多くて動線なども悪かった。引き戸によって、フレキシブルに変えられる空間は、実に動きやすい。「1階だけで暮らせるように」との希求が十分にかき立てられている。

「家中どこでも素足で歩いていて気持ちがいい。ホントに快適で、どこでも寝ることが出来ますよ」と夫。取材時も冬なのに、半袖でも実に心地よさそうだった。特にDKにつながるデッキは天気の良い日には特等席になる。日だまりの縁側なのだ

●工務店からひらき
建物を道路や境界線に沿って並行に建てることは、誰もが当たり前のこととして受け止めてきたことです。しかし、「そのことがどれほどの価値を持つのか、どんな成果があるのか?」と、そんなことを考えながら1000棟余りの住宅を建ててきました。

画(プランニング)をするようになっていきました。また、日差しを屋内に取り込むことと、遮るものの必要性と、その効果をも実践の中で学びました。これらのことは、居心地のいい住まいを作るために何よりも大切な要素です。

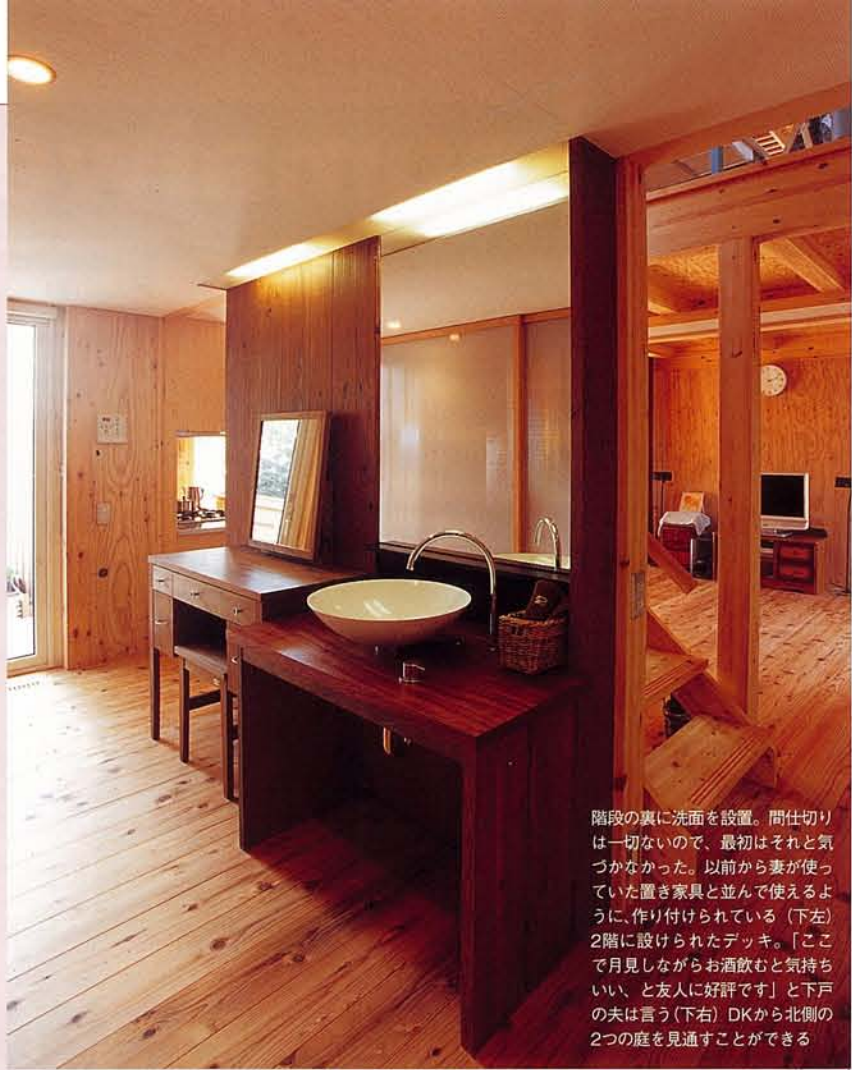
大きな木を植える場所を選定することや、窓の外の景色を考慮しつつ、冬の日差しを取り込んで、夏の日差しを遮ること...等々を突き詰めて考えると、敷地と建物が並行に在ること、得るものよりも失うものの方が大きいことに気付かれます。



名 / シンケン
表 者 / 迫 英徳
住 所 / 〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田4-49-22
☎099-286-0088
http://www.sinkenstyle.co.jp/
年間建築棟数 / 新築70棟
社 員 数 / 88名
主 な 工 法 / 木造軸組金物工法
建 築 地 域 / 鹿児島県土(離島は除く)
設 立 / 1977年11月
定 休 日 / お盆・お正月

D A T A

敷地面積 / 386.35㎡ (117.08坪)
床面積 / 126.25㎡ (38.26坪)
1階 / 82.25㎡ (24.93坪)
2階 / 44.00㎡ (13.33坪)
用途地域 / 無指定(都市計画区域内)
建ぺい率 / 60%
容積率 / 200%
構 造 / 木造軸組工法
竣 工 / 2007年9月



階段の裏に洗面を設置。間仕切りは一切ないので、最初はそれと気づかなかった。以前から妻が使っていた置き家具と並んで使えるように、作り付けられている(下左)2階に設けられたデッキ。「ここで月見ながらお酒飲むと気持ちいい、と友人に好評です」と下戸の夫は言う(下右)DKから北側の2つの庭を見通すことができる



気分のいいお風呂と風情のある庭が
欲しかったんです。ここにいと
ホントに時間を忘れてしまいます。



「迫さんに、気分のいいお風呂にしてくださいと頼んだら、ホントに心地よくなって、うれしくて...時間を忘れて入浴しています(夫)。敷地に対して斜めに建物全体を据ったことで、周囲にいるいろいろな表情の緑の空間をつくることができた。この浴室の前の坪庭もその一つ。天井に檜、浴槽にサワラ、床は黒御影石とヒバのこを使用